

第4章

活力とにぎわいのある産業のまちづくり

第1節 農林業の振興

- (1) 主要農産物の振興
- (2) 環境にやさしい農業の推進
- (3) 農業基盤整備の推進
- (4) 新たな経営安定対策への取り組み
- (5) 高齢者農業、女性農業者の支援
- (6) 生産・流通体制づくりと地産地消の展開
- (7) 観光・交流・むらづくりと情報ネットワークの整備
- (8) 森林の多面的活用と整備

第2節 水産業の振興

- (1) 主要水産物の振興
- (2) 高齢化対策と担い手の育成
- (3) 漁場環境の保全整備
- (4) 水産基盤整備の推進
- (5) 観光漁業などの推進
- (6) 内水面漁業の振興

第3節 製造業・工業の振興

- (1) 新規企業の誘致
- (2) 地場企業の育成・起業家支援
- (3) 雇用対策
- (4) 人材育成、就業支援、学習機会の創出
- (5) 土地利用及び交通環境条件の整備

第4節 商業の振興

- (1) 各店舗の魅力を高める商業・商店街づくり
- (2) 観光や地域産業の特性を活かした商業の活性化
- (3) まちづくりと一体となった商店街づくり
- (4) 協業化・組織体制への支援
- (5) 消費者の保護

第5節 観光の振興

- (1) 広域観光ネットワークの推進
- (2) 観光情報サービスのネットワーク化
- (3) 特産・物産品の開発
- (4) 特色ある観光地づくり
- (5) 観光ツーリズムの開発
- (6) 組織体制の強化
- (7) 国際観光への対応



大浜小学校 5年 松井 祐美さん

第4章 活力とにぎわいのある産業のまちづくり

第1節 農林業の振興

現状と課題

農業においては、担い手の高齢化が進み、後継者不足と耕作放棄地の増加が深刻化しており、地域農業を支える担い手の育成が必要です。

また、新規就農者や地域農業の一翼を担う高齢者、女性農業者に対する支援も必要です。

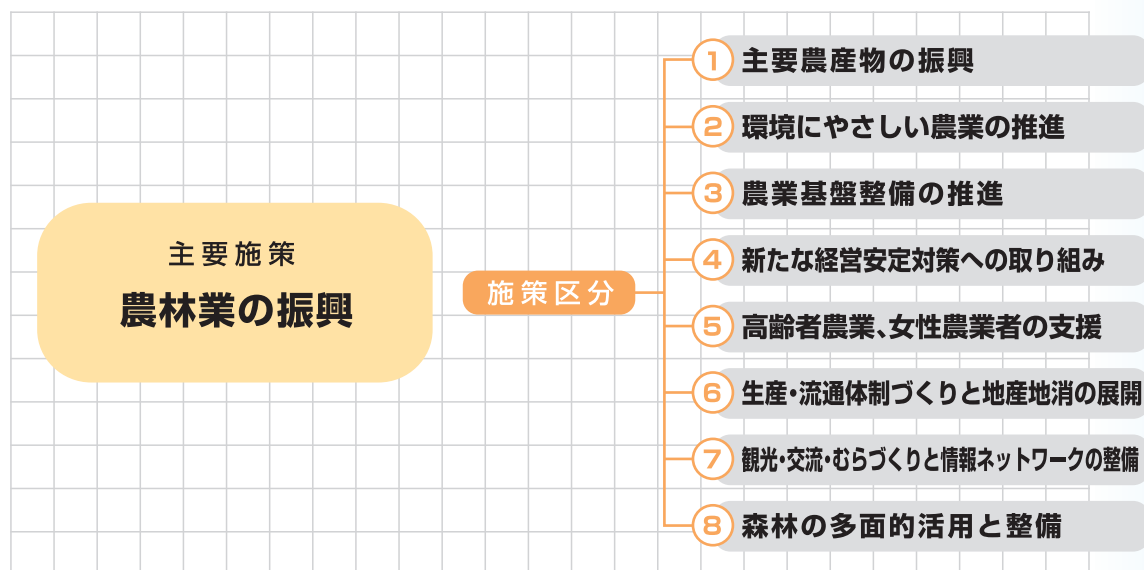
若者に魅力ある農業経営を確立するために、省力化など効率的生産を推進するとともに、販売促進のための諸施策を展開する必要があります。

農業基盤については、圃場の整備、用・排水施設の整備などが求められています。

本市には自然や文化、農産物・農村景観など多くの資源がありますが、観光や交流に活かしていくことが求められており、これらの魅力ある資源を情報発信することが必要です。

また、生産と環境保全を両立させ、持続可能な環境保全型農業^(※)を推進します。

林業については、森林保全に努めるとともに、森林の持つ水源かん養機能を保全するため、秩序ある森林開発が必要となっています。



用語説明

環境保全型農業

農業の持つ物質循環機能を生かし、土づくり等を通じて化学肥料や農薬の投入を低減し、環境負荷を軽減するよう配慮した持続的な農業生産方式



主要施策と概要

(1) 主要農産物の振興

米・麦・大豆などの土地利用型農産物については、諸外国との生産条件格差の補てんと収入・所得の変動を緩和するため、国の政策である品目横断的経営安定対策^(※)に取り組むなど集落営農の推進を図ります。

施設園芸、果樹については、本市は、トマト、いちご、みかんなど地域ブランドとして全国に誇れる生産地ですが、今後も優良品種への転換や品種の統一などにより「玉名ブランド」化をさらに推進します。

畜産においては、省力機械などの導入による飼養管理の改善を図り、品質の向上に努めます。

これらの主要農産物について地域の関係団体との連携を図り、消費者に信頼を得る農産物の供給を図ります。

(2) 環境にやさしい農業の推進

化学肥料・農薬の低減化を推進し、環境にやさしい農業に取り組むとともに、畜産農家と米や野菜などを栽培している耕種農家との連携により、堆肥の有効利用を推進します。

また、近年各地で事業取り組みがなされているバイオマスエネルギーについて、本市の特性を活かすため、積極的な研究、研修を重ねながら環境にやさしい農業の推進、実践に努めます。

(3) 農業基盤整備の推進

圃場整備や用・排水施設、農道整備などを推進し魅力ある農地づくりに努め、効率的かつ安定的な農業生産を目指します。

海岸堤防の老朽化が進んでいるため、海岸保全施設の整備を推進し、安定した農業生産と地域住民の生命・財産の保護に努めます。

◆農業産出額の推移

(単位:千万円)

		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
農業産出額		2,299	2,260	2,247	2,202	2,176
作物	米	350	366	322	372	231
	麦類	41	35	37	36	41
	雑穀、豆類、いも類	28	26	33	40	25
	野菜	1,221	1,292	1,285	1,265	1,275
	果実	374	320	355	303	368
	花き	21	25	19	18	22
	工芸作物	24	24	24	15	22
	種苗、苗木、その他	63	63	61	47	67
	計	2,122	2,151	2,135	2,096	2,051
畜産	肉用牛	12	9	10	3	8
	乳用牛	70	51	55	59	66
	養豚	22	5	5	4	5
	養鶏	64	44	43	39	47
	その他畜産物	10	0	0	0	0
	計	177	109	112	106	126

[資料:生産農業所得統計]

用語説明

品目横断的経営安定対策

個々の品目ごとに講じてきた施策を見直し、意欲と能力のある担い手を対象に、その経営の安定を図る施策（品目横断的経営安定対策）に転換すること

基本計画

便利で快適なまちづくり

人と自然にやさしい環境のまちづくり

人をはぐくむまちづくり

活力とにぎわいのある産業のまちづくり

いきいきと暮らせる福祉のまちづくり

みんなで進める協働のまちづくり

（４）新たな経営安定対策への取り組み

平成 18 年に国の政策である「新たな経営安定対策」により、品目横断的経営安定対策、農地・水環境保全対策、新米政策への積極的な取り組みを推進します。

その認定農業者^(※)数では、県下や九州でも上位にあり、今後も育成の推進を図るとともに、農地の集積、営農集落の設立、計画的な米政策により低迷する農業生産の向上、農業経営の安定を図ります。

（５）高齢者農業、女性農業者の支援

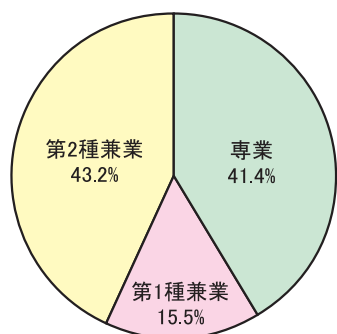
高齢者や女性農業者の持ち味を活かした農業を目指して、小物野菜などの取り組みやすい作物や健康志向の中で薬草を取り入れた栽培など、夢と生きがいのある施策を展開します。

また、農産物加工グループや出荷組織の育成を図るとともに、起業化を目指すグループや製品開発などの意欲が高いグループに対する研修や相談活動の支援を行います。

◆農家数及び農業就業人口の推移

		平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度
農家数(戸)	専業	2,377	1,139	1,367	1,500
	第1種兼業	1,153	1,039	848	561
	第2種兼業	2,894	3,423	2,132	1,565
	計	6,424	5,601	4,347	3,626
農業就業人口(人)	男	4,923	4,190	4,119	3,662
	女	5,705	4,503	4,245	3,577
	計	10,628	8,693	8,364	7,239

[資料:農林水産課]



農家数(平成17年度)



稲の刈取

用語説明

認定農業者

農業経営の発展を目指し、農業経営の目標（農業経営改善計画）を立て、市町村に認定された農業者のこと



(6) 生産・流通体制づくりと地産地消の展開

直売施設への情報提供、関係者の情報交換の場づくり、消費者との対話づくりを進め、地産地消の取り組みを強化します。

また、補助制度を活用して農産物の直売所を設置するなど販路拡大を図ります。

学校給食や旅館など観光施設において、地場農水産物の活用を推進します。

(7) 観光・交流・むらづくりと情報ネットワークの整備

本市の豊かな交流資源の保全と活用を目指して、観光・交流・体験学習のメニューを開発し、関連団体との連携による交流プログラ

ムの開発に取り組むとともに、グリーンツーリズムの取り組み意向を持つ農家などを支援します。

また、子どもの豊かな心をはぐくむため、農業の体験学習など学校教育と連携して取り組みます。

また、情報ネットワークを構築し、情報提供に努めます。

(8) 森林の多面的活用と整備

市民と森林との関わりを深めるために、林道の維持・保全及び整備を図ります。

また、不正な山林開発行為の防止に取り組むとともに、管理放棄された人工林については、再自然林化の促進を目指します。



ミニトマトの収穫



路地みかん

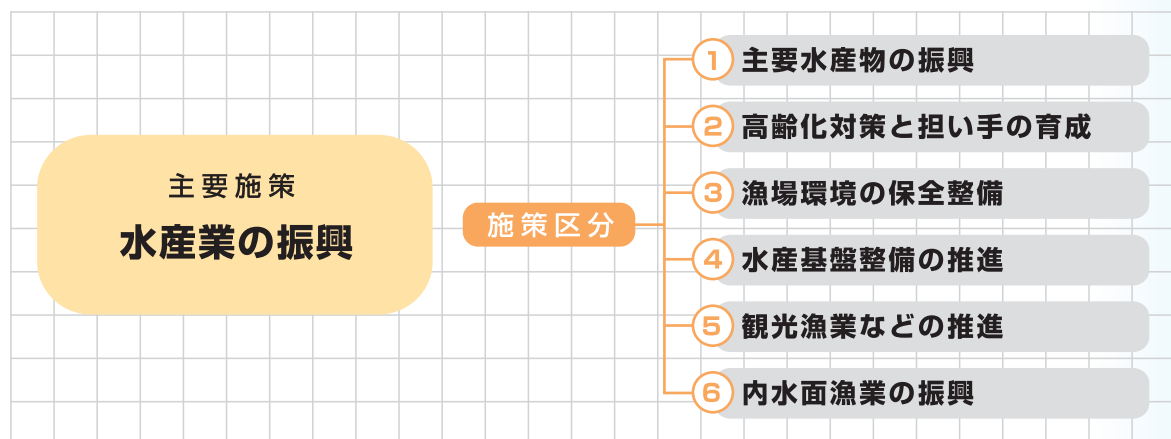
第2節 水産業の振興

現状と課題

菊池川河口域の海苔やアサリは、現在良好な生産量が確保されていますが、近年、漁場環境は急速に悪化している状況にあり、有明海全域の連携により環境保全、干潟漁場の整備を図る必要があります。

水産業における後継者不足を解決するため、協業化などの生産体制の合理化や組織化が求められています。

水産基盤においては、漁港整備や生産設備の共同利用などに取り組む必要があります。



◆漁業生産額の推移(海苔)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
生産量(千枚)	127,660	196,310	237,513	186,254	240,229	258,261
生産額(千円)	1,298,556	1,827,121	1,799,780	1,810,581	2,129,058	2,135,425

[資料:農林水産課]

◆漁業生産額の推移(アサリ貝)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
生産量(t)	7	179	723	2,382	1,656	1,811
生産額(千円)	44	77,923	272,127	680,698	516,901	598,428

[資料:農林水産課]



主要施策と概要

(1) 主要水産物の振興

水産物の生産性を向上させるために、質の高い生産と安全・安心な水産物の提供ができる漁場整備を図ります。

(2) 高齢化対策と担い手の育成

高齢化対策として、協業化など生産体制の合理化とともに、担い手の育成・確保を推進します。

(3) 漁場環境の保全整備

有明海の再生に向け、県や大学と連携して海苔、アサリの水産有用生物の生態系調査など継続して調査・研究に努めます。

(4) 水産基盤整備の推進

漁業基地の基盤については、「水産基盤整備長期計画」に基づき整備を推進します。

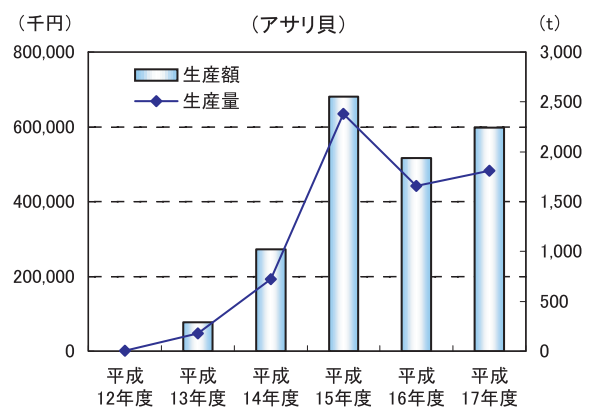
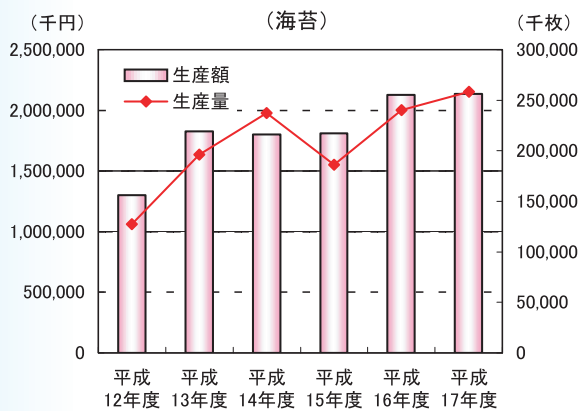
生産体制については、補助事業の活用により生産体制の組織化を図るとともに、生産設備の共同利用を推進します。

(5) 観光漁業などの推進

観光漁業については、若手漁業者に対し伝統の地引き網などの活用を推進し、観光と連携した新たな事業として活性化を図ります。

(6) 内水面漁業^(※)の振興

内水面漁業の振興を目指して、稚魚放流事業の取り組みや遡上アユなどのモニタリング調査、魚類の産卵場の維持管理を促進し、河川本来の資源再生産力の復元に努めます。



用語説明

内水面漁業

河川や湖沼などで行なう漁業及び養殖業

基本計画

便利で快適なまちづくり

人と自然にやさしい環境のまちづくり

人をはぐくむまちづくり

活力とにぎわいのある産業のまちづくり

いきいきと暮らせる福祉のまちづくり

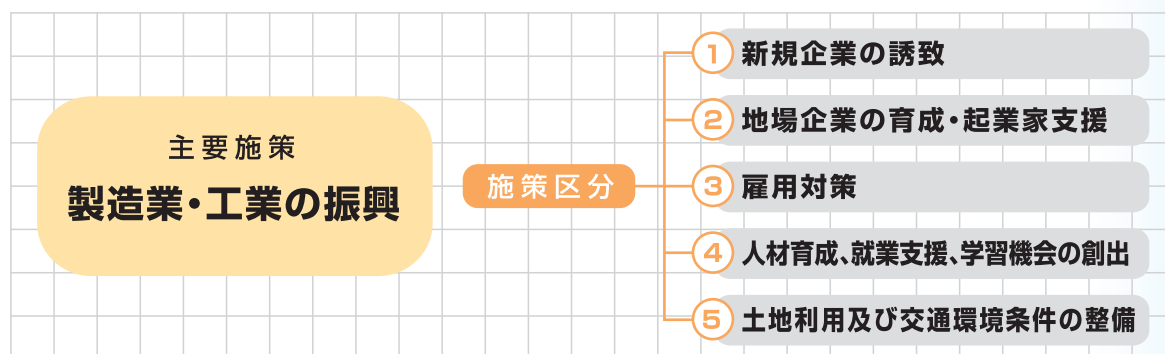
みんなで進める協働のまちづくり

第3節 製造業・工業の振興

現状と課題

国内の企業が製造拠点をアジア諸国に求める動きが見られるなか、本市の製造業においては、製造品出荷額や事業所数は横ばいの状況ではありますが、国際的な競争激化に対応するため生産体制の見直しが進み、雇用者数は減少しています。

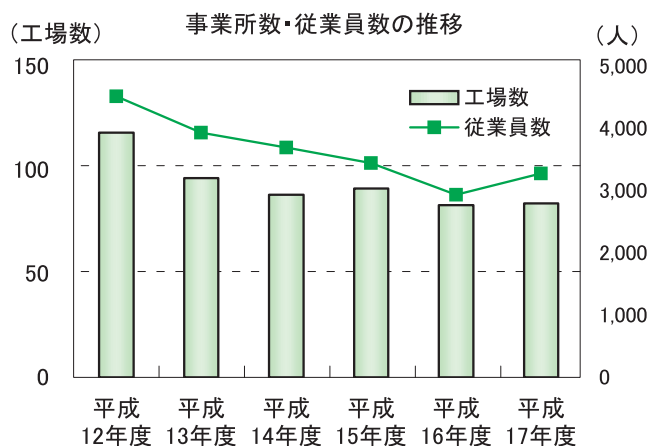
このような状況のなか、地域の活力維持のためには、優良企業の誘致や地場企業の育成による安定した就労の場を確保する必要があります。



◆事業所数の推移(従業員4人以上の事業所)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
工場数(箇所)	118	96	88	91	83	84
従業員数(人)	4,518	3,938	3,696	3,443	2,934	3,282
製造品出荷額(万円)	9,841,194	8,330,425	7,730,470	8,159,048	8,244,673	7,638,279

[資料:工業統計調査]





主要施策と概要

(1) 新規企業の誘致

地域経済への相乗効果が得られるような優良企業の誘致活動に努め、地元への安定した就労の場の確保を図ります。

そのため、工業団地の整備を図るなど、誘致拠点としての有利性の確保を目指します。

(2) 地場企業の育成・起業家支援

技術研修会やセミナーなどの実施を支援して、企業間の取引拡大、技術向上の支援を図ります。

(3) 雇用対策

企業のニーズを把握しながら雇用拡大を図ります。

また、失業者、若者の地域定住及び市外就

業者のUターンなどの促進を目指して情報を提供し、雇用機会の拡大を図ります。

(4) 人材育成、就業支援、学習機会の創出

企業が求める高度な技術に対応するため、就業支援向けの研修会やセミナーを実施するなど、支援体制の整備を図ります。

また、高齢者の就業の機会を確保するための支援を行います。

(5) 土地利用及び交通環境条件の整備

玉名バイパスと九州新幹線の早期完成や、九州縦貫自動車道菊水ICや南関ICとのアクセスの整備など道路交通ネットワークの構築を図り、物流体制の確保を図ります。

◆産業別事業所従業員数等

	食料品	衣服	家具	印刷・出版	窯業・土石	金属製品	一般機械	電気機器	その他	計
事業所数(箇所)	22	8	1	11	7	6	7	4	18	84
従業員数(人)	615	171	9	386	54	129	64	430	1,424	3,282
製造品出荷額(万円)	763,224	82,597	-	1,238,136	96,341	179,062	98,407	2,021,456	3,159,056	7,638,279

[資料:工業統計調査]

基本計画

便利で快適なまちづくり

人と自然にやさしい環境のまちづくり

人をはぐくむまちづくり

活力とにぎわいのある産業のまちづくり

いきいきと暮らせる福祉のまちづくり

みんなで進める協働のまちづくり

第4節 商業の振興

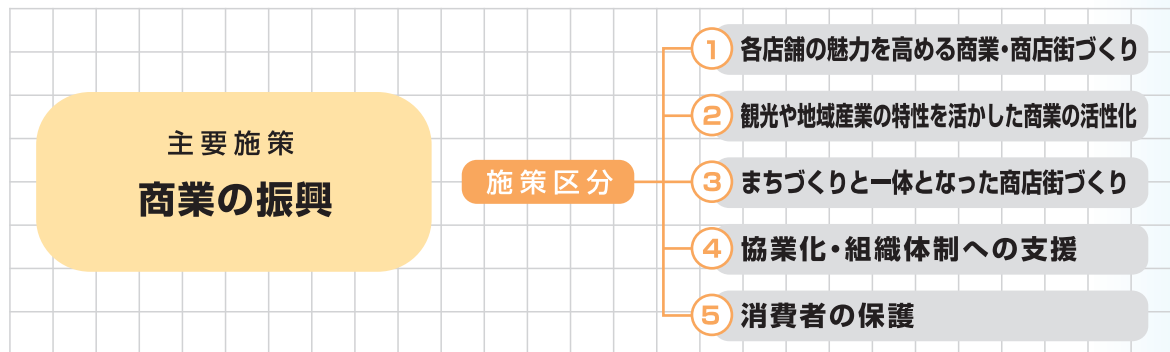
現状と課題

本市の商業を取り巻く状況は、消費者ニーズの多様化、車社会の進展による消費行動範囲の拡大などにより、商店街などの地域型から、大型店・ロードサイド店^(※)などの郊外型への傾向が強まっています。

さらに商店街においては、価格破壊などによる競争力の低下や商業経営者の高齢化と後継者不足などにより空き地や空き店舗などが見られ、市街地の空洞化が顕著になっています。

そのような状況のなか、商業を振興するためには、中心市街地の再整備を行い、居住人口の減少や高齢化社会への適切な対応が求められています。

また、消費者の多様化するニーズに対応するため、個性的で魅力的な商店街の形成や機能的な市街地空間の創出が必要となっています。



◆卸売業事業所数等の推移

	事業所数(箇所)	従業者数(人)	年間販売額(万円)
平成9年	141	879	4,004,387
平成11年	157	960	4,182,909
平成14年	130	891	3,636,400

[資料:商業統計調査]

◆小売業事業所数等の推移

	事業所数(箇所)	従業者数(人)	年間販売額(万円)
平成9年	917	4,210	6,672,738
平成11年	901	4,472	6,914,941
平成14年	780	4,332	5,043,400

[資料:商業統計調査]

用語説明

ロードサイド店

幹線道路などに面している店舗



主要施策と概要

(1) 各店舗の魅力を高める商業・商店街づくり

商業者などを対象にした各種研修会の開催や経営支援、創業支援、市街地に点在する空き店舗や空き地の再生など、商業の総合的な改善を推進します。

また、これらの事業を実施する商工会議所や商工会など関係団体を支援します。

(2) 観光や地域産業の特性を活かした商業の活性化

温泉やその他の観光資源、みかん・いちご・メロン・トマトなどの農産物、アサリ・海苔などの水産物、玉名ならではの特産品を取り込んだ共同でのイベントなどを開催し、新たな顧客開発や誘導を行い、観光や地域の産業の特性を活かした商業の活性化を図ります。

(3) まちづくりと一体となった商店街づくり

安全で快適な歩行空間の確保や統一性のあ

るまちなみの形成を図るため、沿道緑化、街灯整備、ファサード[※]などの整備を推進するとともに、地域のまちづくりと一体となった商店街づくりを推進します。

また、以前繁栄した大型店舗の跡地やその他の遊休地については、都市政策や居住人口対策による市街地機能の強化を目指します。

また、高齢社会にも対応した人にやさしいまちづくりを推進します。

(4) 協業化・組織体制への支援

にぎわいのある商店街を目指して、店舗の共同化や協業化の支援に努めます。

また、商業地・商店街などで取り組む各種イベント事業や販売促進事業、活動組織に対して支援します。

(5) 消費者の保護

消費生活における消費者のトラブル解消や安全確保に当たるとともに、関係団体と連携し、消費者教室などの開催を通して市民への普及啓発を行います。



高道小学校 4年 宮内 亮太くん

用語説明

ファサード

建物の正面の外観

基本計画

便利で快適なまちづくり

人と自然にやさしい環境のまちづくり

人をはぐくむまちづくり

活力とにぎわいのある産業のまちづくり

いきいきと暮らせる福祉のまちづくり

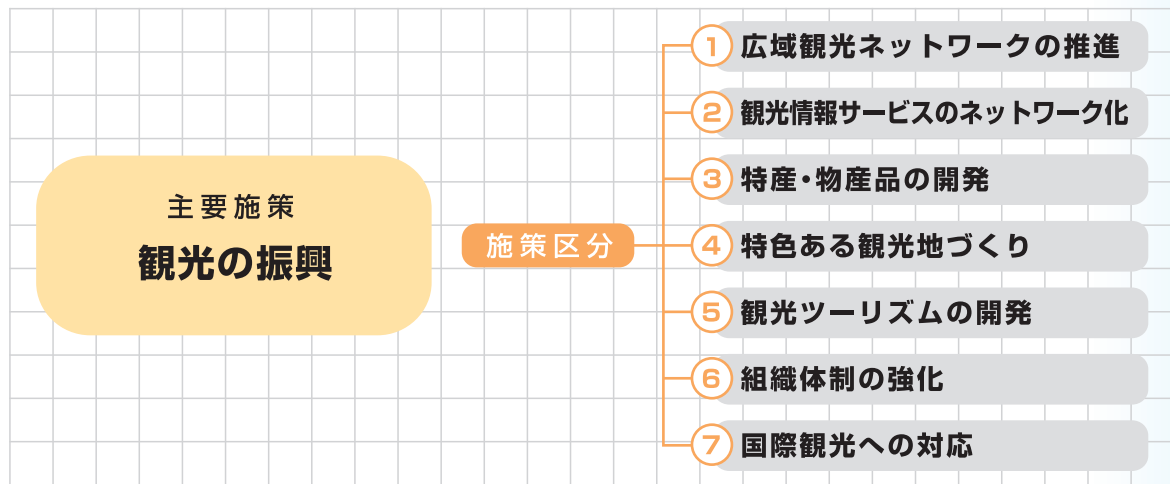
みんなで進める協働のまちづくり

第5節 観光の振興

現状と課題

最近の観光旅行の形態は、団体旅行から個人や小グループでの旅行へと変化してきています。観光に求められる目的やニーズも多種多様であり、これらに対応した受け入れ態勢の充実を図る必要があります。

さらに、九州新幹線の全線開業により今まで以上に人々の交流が拡大し、海外からの来訪も含めた観光客の増加が期待される中、菊池川流域の各温泉地が連携し観光商品開発を進める動きがあるなど、豊富で魅力ある観光資源を活かした広域観光戦略がますます重要となってきています。

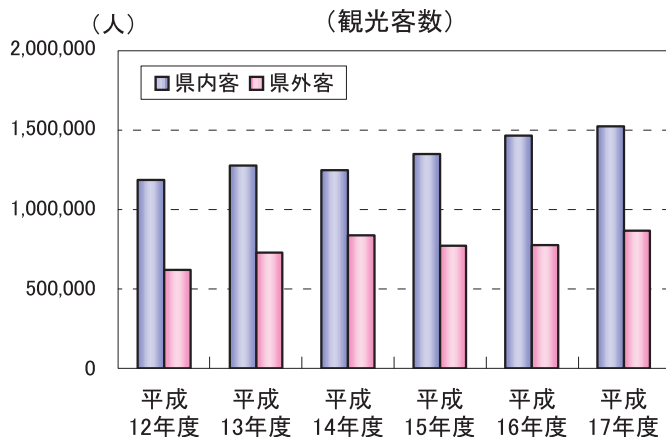


◆観光客数等の推移

(単位:人)

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
観光客数	県内容	1,176,830	1,265,350	1,238,331	1,339,127	1,451,544	1,511,527
	県外客	615,954	723,673	831,659	764,835	769,305	859,679
	計	1,792,784	1,989,023	2,069,990	2,103,962	2,220,849	2,371,206
宿泊者数	県内容	42,281	43,772	31,027	34,261	35,264	31,711
	県外客	116,921	105,656	100,283	89,242	80,488	76,637
	計	159,202	149,428	131,310	123,503	115,752	108,348

[資料:熊本県観光統計基礎資料]





主要施策と概要

(1) 広域観光ネットワークの推進

近隣市町をはじめ県北全域との連携強化を図り、歴史、文化、自然、景観、食、温泉などの豊富で魅力ある観光資源を活かした広域観光ルートの開発と商品化に取り組みます。

(2) 観光情報サービスのネットワーク化

観光地や観光施設などへのスムーズな案内を促すために、外国語標記も含めてすべての人に分かりやすい誘導サインなどの整備を図ります。

また、観光ホームページや観光パンフレットの充実を図るとともに、玉名温泉街をはじめ主だった観光地・観光施設においては、新鮮で幅広い観光客のニーズに対応した情報を

提供できる体制を整えます。

また、九州新幹線開業に向けて新駅内の観光案内所の設置に取り組みます。

(3) 特産・物産品の開発

観光客の多様なニーズに応えるために、観光物産振興協議会をはじめ、農林水産業や商工業関係団体と一体となり、多種多様な地元産品を活かし、玉名ならではの商品につながる「玉名ブランド」を創出します。

また、各関係団体の協力を得ながら、農林水産品、物産品及び工芸品などを一同に集めた市内外での「玉名物産展」の開催を目指します。



玉名の物産品

（４）特色ある観光地づくり

観光地の差別化による魅力向上を目指して、健康志向の中で薬草を利用した薬膳料理などの観光商品の開発、観光地・温泉旅館でのおもてなしの心の向上を図るなど、観光客のニーズを踏まえたリピーターの増加を促進します。

また、関係団体とタイアップし、玉名・小天各温泉や草枕・西南の役ゆかりの観光資源、あるいはその他市内観光施設をはじめ、高瀬裏川花しょうぶまつりなどの観光イベントへの誘客を図るため、関西以西をターゲットに観光客誘致キャンペーンの推進を図ります。

（５）観光ツーリズムの開発

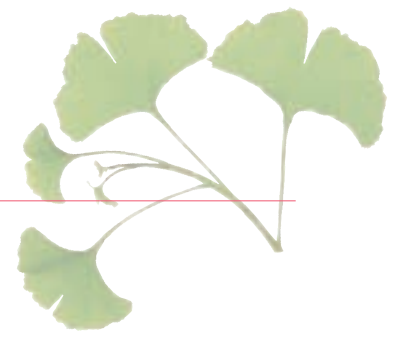
観光スタイルの多様化に応えるために、様々なメニューの商品化を目指しハード・ソフト両面での受け入れ態勢の整備を図り、歴史・文化・自然・景観・食・スポーツ・環境など、あらゆる観光資源を活かした観光メニューの開発や、山間部や海岸部などの地域ごとの特色と産業を活かした体験型メニューも創出し、広域観光ネットワークにつなげていきます。



高瀬裏川花しょうぶ祭り



玉名町小学校 4年 松尾 涼花さん



(6) 組織体制の強化

多種多様にわたる観光ニーズに対応するため、観光関係に限らず、各産業・各業種の団体に対して観光協会への協力・加入を呼びかけ、幅広い視点をもった体制強化を目指します。

また、温泉観光旅館協同組合についても、観光協会や商工会議所、観光関係者や商店街などと連携し推進体制の強化・支援を図りながら、玉名温泉活性化ビジョンを柱とした温泉街の活性化を推進します。

(7) 国際観光への対応

外国人観光客の受け入れを目指して、玉名観光協会や温泉旅館などの関係団体と連携し、外国語標記のパンフレット作成や案内板などの整備を進め、受け入れ態勢の充実と誘客宣伝を推進します。



八嘉小学校 5年 村上 国生くん